2011年度 修了

状況依存視点からみた対人恐怖心性
― 自己紹介場面における体験の語りをとおして ―

立命館大学大学院
応用人間科学研究科
臨床心理学領域
奥村　裕貴

本論文は，対人恐怖症の状況依存視点が，対人恐怖心性に適用できるかどうかについて検討したものである。

これまで対人恐怖症の属性視点,つまりパーソナリティの問題としてとらえる枠組みは,精力的に議論されてきたが，状況依存視点，つまり状況依存的な「今，ここ」の体験をとらえる枠組みについては，岡野(1998)が明確に取り上げるまで，詳細に議論されてこなかった。そのため，対人恐怖症の属性視点が対人恐怖心性に数多く適用されてきたのに対して，対人恐怖症の状況依存視点については，対人恐怖心性に全く適用されてこなかった。

したがって，上記の検討を行うこととし，以下二つの仮説を検証することとした。一つは，対人恐怖心性が状況に応じて変動するということであり，もう一つは，対人恐怖症の状況依存視点で対人恐怖心性の高低に基づく対人恐怖体験を理解することができるということである。これらの仮説を検証するために,自己紹介場面に焦点化した条件下における,対人恐怖心性尺度の得点の変動，および過去の自己紹介場面の体験の語りを分析した。

その結果，対人恐怖心性が場面によっては高まる可能性，あるいは高まる人が存在する可能性が見出されたが，対人恐怖症の状況依存視点を対人恐怖心性の高低に基づく対人恐怖体験に，全面的に適用することはできなかった。すなわち，対人恐怖心性の高低に基づく対人恐怖体験には２パターンあること，および，その２パターンの相違点は，体験を失敗と感じるかどうかであるということが見出された。